寺田遺跡第３次調査現地公開資料

平成 22 年 12 月 25 日（土）
大阪府教育委員会事務局文化財保護課

１．はじめに

寺田遺跡は、大阪府和泉市寺田町地内に所在する遺跡です。府営和泉寺田住宅建替え工事に先立ち、発掘調査を実施しています。本調査は、平成 16 年度、平成 19・20 年度に続くものです。計 3 次、面積にして約 7000 ㎡を調査した成果によって、この遺跡の様相がかなり明らかになりつつあります。第 3 次調査の成果を中心に寺田遺跡の具体像について説明いたします。

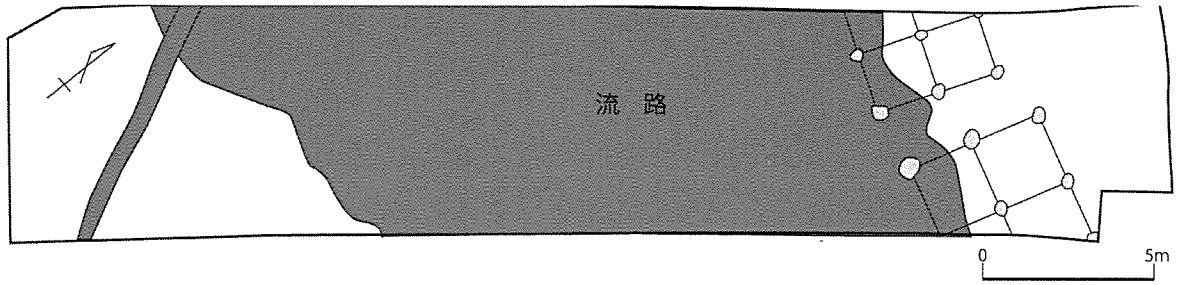
２．これまでの調査

○第１次（平成 16 年度）：多数の竪穴建物、掘立柱建物、井戸、溝などとともに大量の土器が出土し、この遺跡が古墳時代中期（５世紀）を中心とした規模の大きな集落であることが明らかとなりました。鉄滓など、鍛冶を行っていた痕跡が認められる点も重要です。
○第２次（平成 19・20 年度）：平成 16 年度調査区から南西へ約 100m ほど離れた地点にあたりますが、古墳時代中期の遺構はほとんど認められず、さらに古い弥生時代の竪穴建物が検出されました。

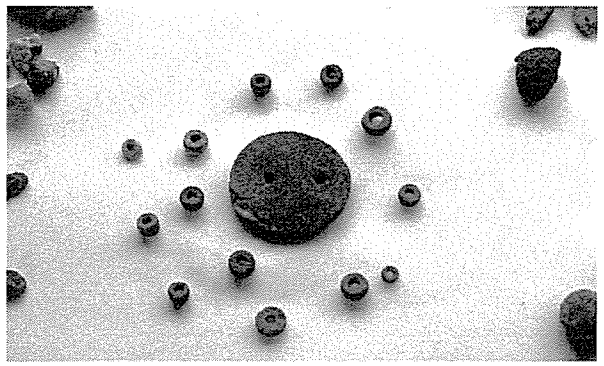
３．今回の調査成果

第３次調査は、第１次調査区と第２次調査区の間に位置し、１～３の調査区に分かれています。

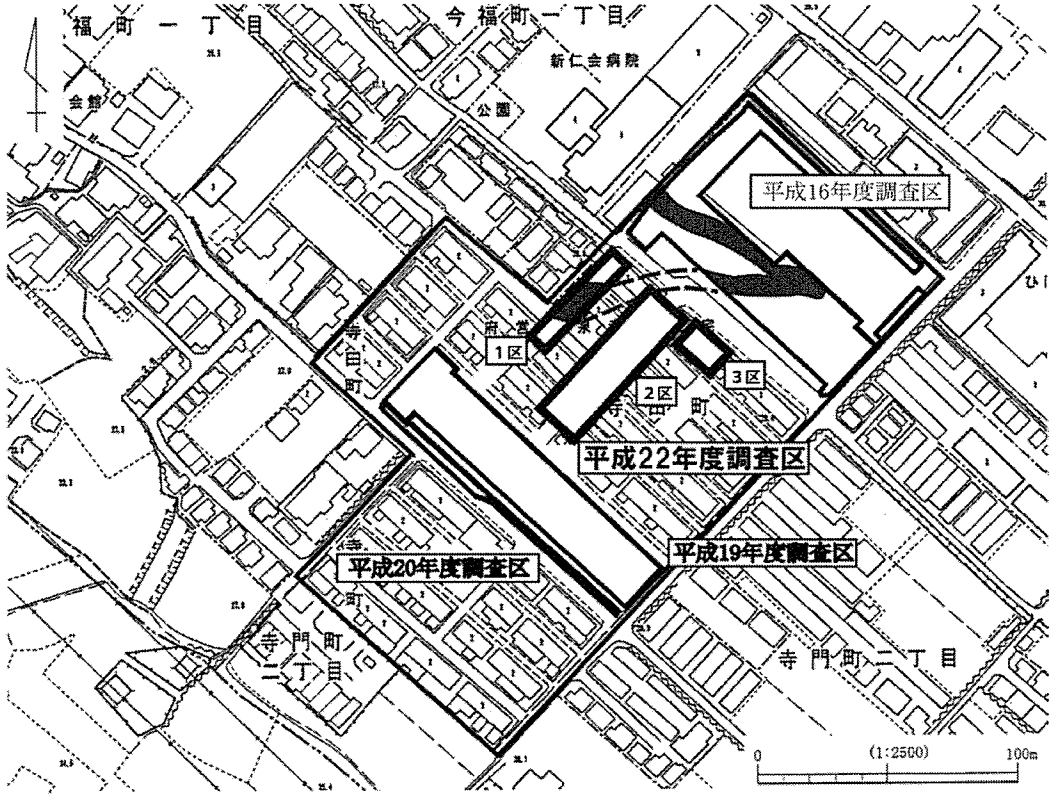
【１区の調査成果】



調査区の大半を占める大規模な旧河川の流路を検出しました。第１次調査で検出された河川につながるものと思われます。古墳時代初頭の土器を含む下層と古墳時代中期の土器を大量に含む上層とに分けられます。上層からは、滑石製玉類（写真：臼玉および双孔円盤）が出土しました。玉類には未完成の状態と考えられるものが含まれています。
そのほか河川の埋没後に建てられた掘立柱建物2棟、溝1条を検出しました。



流路から出土した滑石製玉類



４．まとめ

寺田遺跡は、古墳時代中期に最盛期を迎える集落であり、遺構の密度や遺物の量が多いことが注目されます。５世紀中ごろ、寺田村は泉州でも有数の人口を抱える集落であったと考えられます。

多数の建物にも大小の規模の差やさまざまな構造の違いがあることは、用途だけでなくに身分の違いなども考える必要があるのかもしれません。生活に必要なさまざまな道具、特に鉄器は村の中で作られたことがわかります。また流路に投げ込まれた滑石製品は当時の精神生活の一端をかいま見せてくれるものですし、それらが村の中で作られているという点も重要です。

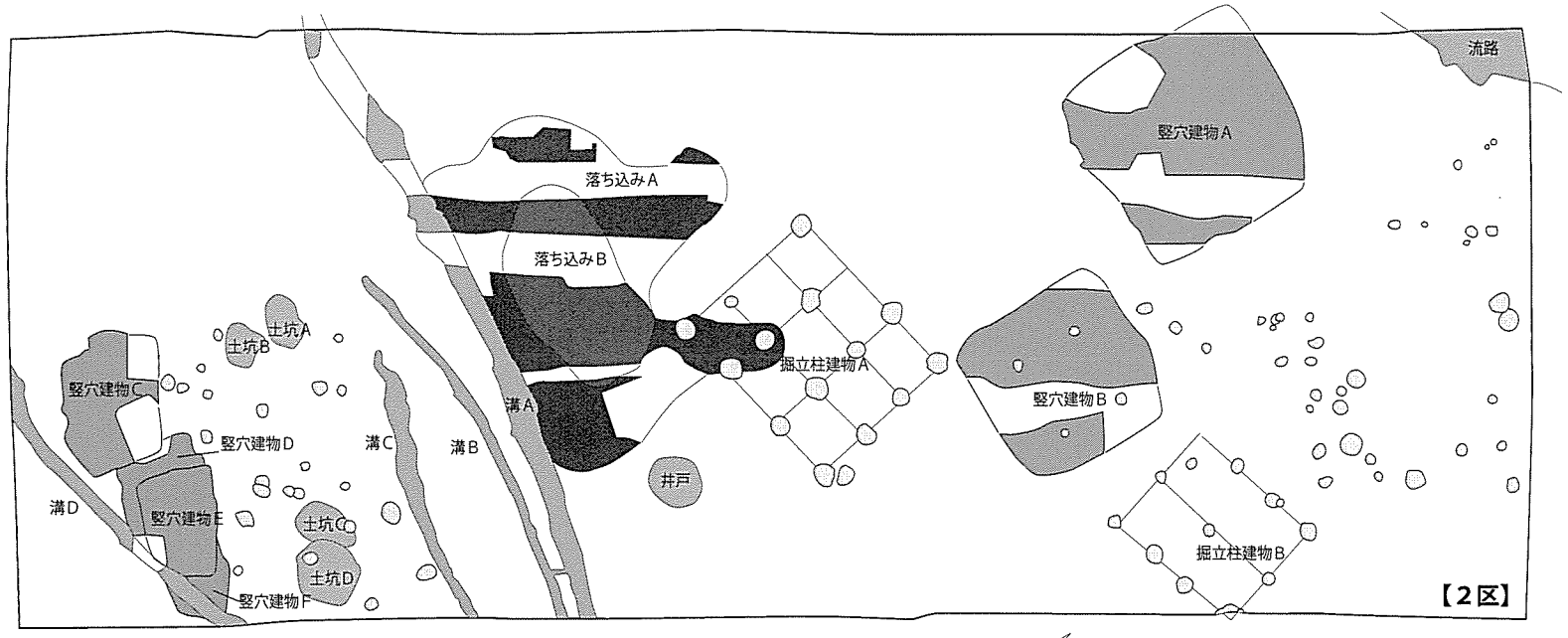
1600年前の寺田村に暮した人々の姿が少しづつ、しかし着実に明らかになりつつあります。

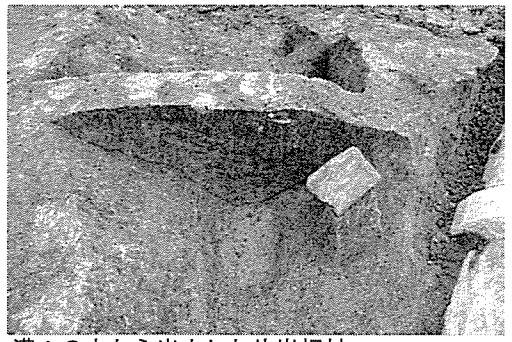
寺田遺跡第３次調査

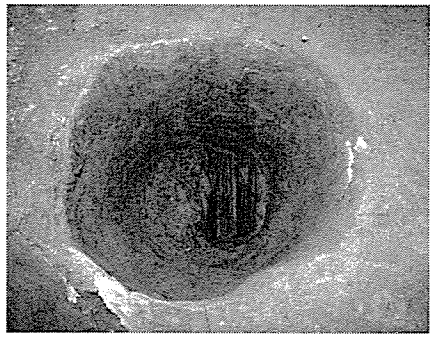
現地公開資料

平成 22 年 12 月 25 日

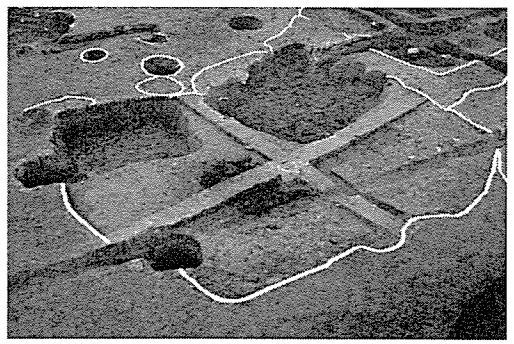
大阪府教育委員会事務局文化財保護課
590-0105　堺市南区竹城台３丁 21－4
大阪府文化財調査事務所
http://www.pref.osaka.jp/bunkazaihogo/index.html

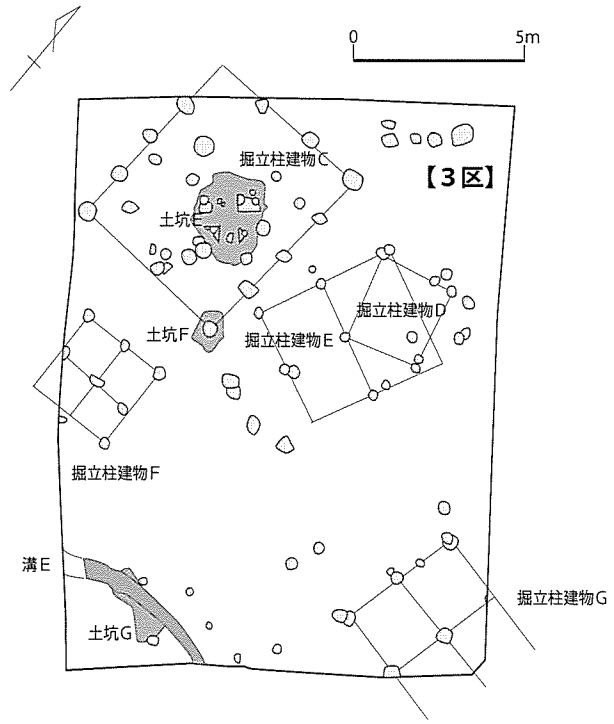



溝Aの中から出土した片岩板材


掘立柱建物Aの柱穴と礎板

落ち込みBの中から出土した須恵器


竪穴建物Cの床面と炉跡



【2区の調査成果】

2棟以上の掘立柱建物、6棟以上の竪穴建物、溝、井戸、土坑、落ち込みなどを検出しました。これまでの調査成果と総合すると集落中心部（北東）から縁辺（南西）にかけての建物や施設の配置が確認できました。

- 竪穴建物A：約6m四方を測りこれまでに寺田遺跡で知られているものの中でも特に大きい建物です。
- 竪穴建物C～F：一辺3～2mを測る小型のもので、内部に柱穴がないことから、簡単な構造の建物が建てられていたと考えられます。日常居住するというよりは、作業小屋あるいは工房のような性格を持っていたのではないかと推測されます。
- 掘立柱建物A（3間×3間）：柱穴の痕跡から、特に太い柱を地下深く据えたことが分かります。底には柱の沈み込みを防ぐため、板（礎板）が敷かれていました。総柱（建物内部にも柱がある）であることも併せて考えると重いものをしまうことのできる倉庫と思われます。
- 溝A：集落の内部を区切る溝です。埋土から和歌山県で採れる片岩の板材が出土しました。片岩は玉の材料とする場合のある石材です。
- 落ち込み：5世紀中ごろ、集落内部の窪地状の地形（落ち込みA）に土器などが捨てらています。5世紀後半にこれを一部掘り込んで落ち込みBが形成されました。中からは多量の土器が出土しました。
- 流路：第1次調査および今回の調査の1区を流れる流路の一部を検出しました。
- 井戸：地面を水が湧く層まで掘りぬいた素掘り井戸です。現在でも水が湧いてきます。

【3区の調査成果】

5棟以上の掘立柱建物、溝、土坑を検出しました。集落中心部の状況を知ることができました。

- 掘立柱建物C：4間×3間を測る寺田遺跡の中でも特に立派な建物です。
- 土坑E：不整形に掘り込みの中に沢山の柱穴状のくぼみがあり、炭が薄く広がる部分も認められます。